

本日も「前期選拔出願書類受付」の日である。前号ではG君を紹介したが、今号ではTさんを紹介する。彼女にとって私は国語の担当教師であり、部活動の顧問であった。

私は彼女が中学2年生のときに彼女の学校に赴任した。その当時のソフトテニス部は弱かった。支部大会の1・2回戦で敗退するチームだった。加えてテニス部なのに学校にテニスコートがなかった。学校近くの公民館のテニスコートをお借りしていた。だが、週末になると貸してもらえないため、土曜日と日曜日はどこかに行くしかなかった。

私は転勤してすぐにでも勝たせてやりたいと考えるので、そのときの3年生は大変である。あと2ヶ月あまりで部活動も引退かと思いきや今までとは全く別の部活動が始まったのである。密度の濃い2ヶ月を過ごすのだが、さすがに思うようには勝つことができない。

そして、6月中旬からは1・2年生の新チームとなる。私は勝たせてやりたいと考え、計画を練る。新人大会での目標を設定し、そこから逆算して練習計画を立てる。すると、暑くて熱い夏を過ごすことになる。もう生徒たちは必死だったと思う。何も考える余裕もなく、ただただついていくという状態だったと思う。

この新チームのキャプテンがTさんである。他の部員以上に一番苦勞をした生徒である。9月の新人大会のシーズンになった。生徒たちのがんばりのお陰で戦える感触はあった。練習はうそをつかないということである。結果は支部大会2位、県北大会2位であった。1位の学校は県大会でも上位に進むチームで、この時点では勝つことはむずかしかった。

そして県新人大会を迎える。県大会まできたから伸び伸びとやればいいのかと考えていた。すると、本当に伸び伸びと力を発揮してベスト8まで勝ち上がった。たぶん生徒たちは県大会ベスト8というものがよくわからなかったと思う。今まで見たことがない景色なのである。

無名の学校が一気に県大会の舞台上で躍動したわけだが、その中心にTさんがいた。彼女はキャプテンシーがあり、練習も人一倍がんばっていた。こちらからすると、なぜそんなにがんばることができるのかと聞きたいほどである。

その彼女が、3年生の7月に部活動を引退した。2学期が始まると、毎朝一番に登校してきて教室で勉強しているTさんの姿があった。志望校を聞くと随分と遠慮がちに「〇〇高校です」と答えた。その当時女子生徒が入る高校としては最も難しい高校だった。自分の成績がそのレベルにないことを十分に分かっている彼女は小声で答えるしかなかったのである。

しかし、ここからがTさんの真骨頂である。彼女の努力は毎日毎日続いた。あるとき私は彼女に何気なく聞いた。「なぜそんなにがんばることができるのか」とすると、彼女の答えは「部活に比べたらこんなのは大したことはありません」苦笑いするしかなかった。一つのことをとことんがんばることができる人は、それだけのエネルギーをもっているということである。そういう人は、がんばる対象が変わってもやはりがんばることができるのである。

毎日毎日努力をしているTさんの姿を見ているだけに、志望校に合格できるかハラハラドキドキであった。結果は、合格だった。やはり神様は見ていてくれた。こんなに純粋に努力できる人のすごさを。彼女は高校でも努力を重ね、大学に進学した。きっと、彼女のベースとして、生きる上での土台として中学校の部活動があるにちがいない。私にとってTさんをはじめ、あの暑い熱い夏を共に過ごした生徒たちは宝物である。

きっと今回の前期選抜では、部活動をがんばってきた多くの生徒たちが一般選抜に加えて特色選抜を受験することだろう。皆さんの健闘を祈る。